

# 名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2023 年 9 月 27 日

学部・学科名 世界教養学科

担当教員氏名 ヴァミューレン服部美香

1. 区分	中期留学
2. プログラム名称	世界教養学科中期留学
3. 渡航先国名	ニュージーランド
4. 派遣期間	2022年9月3日(土)～ 2022年11月27日(日) 86日間
5. 派遣先教育機関名	フィティレイア大学
6. 参加学生数	14名
7. 派遣目的	語学研修に加え、インターンシップ準備講座、ホームステイプログラムなどで英語運用能力を高める。インターンシップで仕事として専門性の高い会話力を鍛えるとともに多文化・多民族社会の中でどのように生きていくのかという将来のビジョンや自分のコンフォートゾーンが広がることを目指す。
8. 派遣内容	世界教養学科中期留学は9週間の語学研修、2週間のインターンシップからなる3か月間の留学プログラムである。まず、ニュージーランドのウェリントンにあるフィティレイア大学で英語を集中的に学ぶ中で英語運用能力を高める。さらに1週間にわたるインターンシップ準備講座を受講後、現地の企業で約2週間のインターンシップで、緊張感がある中で仕事としての専門性の高い会話力も鍛える。すでに多文化・多民族化が進んでいるウェリントンには多文化共生を体感するチャンスが溢れており、様々な背景を持つホストファミリーと過ごす時間も生きた英語に触れ

	<p>る貴重な機会となっている。多文化・多民族社会の中でどう生きていくのかという将来のビジョン、そして自分のコンフォートゾーンが広がる研修となっている。</p>
<p>9. 成果</p>	<p>9週間の語学研修、ホスピタリティー研修、2週間のインターンシップからなる3か月はかなり充実した時間であった。初めての海外渡航であった学生がほとんどであったが、日本出国から帰国まで、グループでなく自分一人で行うことができるかを意識させながらの研修となった。コロナ禍であったため、前回の研修から変更を余儀なくされたが、学生は事情を理解した上で、柔軟に対応できた。オークランドキャンパス閉校に伴い、ウェリントンでの研修となった。また、ニュージーランドの入国制限のため、多国籍の学生ではなく、本学の学生のための語学授業となったことも、与えられた環境をいかにうまく活かして語学学習を進めていくかとより意識を高めるきっかけとなった。そのため学生個人の工夫が見られた。インターンシップ準備講座受講後、現地の企業・施設での約2週間のインターンシップでは緊張感のある中で仕事としての専門性の高い会話力・対応力も鍛えられた。現地の人々と触れ合うことで、ニュージーランドと日本の経済状況、労働観、人生観、自分の将来設計などを客観視し、留学前よりもより深く広く物事をとらえられるようになったとの声も多かった。「多文化・多民族社会の中でどう生きていくのかという将来のビジョン、そして自分のコンフォートゾーンが広がる研修」という当初の目標は達成できた。</p>
<p>10. 備考</p>	

以上

## 中期留学での気づき

まず英語力の再確認をすることができた。自身の英語のスキルが現在どれほどのものなのか、現地の人達と関わることで自分の位置を再認識することができた。TOEICなどの試験で使うような英語を学ぶことも大切だが、簡単な英単語であってもそれを様々な場面でスムーズに活用できることがより重要であると思う。なのでリーディングやライティングが上手くできるのはもちろん良いことだが、中期留学の間、より必要になるのはこの2つではなくリスニングとスピーキングの力だと思いつくづく感じた。中期留学では一緒に来た日本人の集団で授業を行うため授業中は英語を使っているが、空き時間やわからない問題などを日本人に日本語で聞いてしまうため、英語を使えるような場所を探す必要がある。学校外での活動で自身が英語を使える活動をするまたそのような環境に置くことでよりいい経験になった。私の場合、友人に勧められニュージーランドのジムに行った結果、そこで暮らす人々と沢山話す機会を得たり、SNSを交換できたりなど明らかにニュージーランドでの学校生活よりも充実した。自主性の大切さそして自分自身の行動によって選択の幅が広がることを身に染みて感じた。

個人的にニュージーランドに三か月留学して最も違いを実感したのは人の優しさと良い意味での関心の無さだ。留学という経験がニュージーランドだけであるためこのように感じてしまうだけなのかもしれないが、街中においてもジムにおいても多くの人達が何も知らない外国人である私に話しかけてくれた内容は「日本は住んでてどんな国のように感じる？」や「流行」などであった。そしてこちらから聞くことが無くても自国への愛について話している人達も多くいた。人の優しさと同時に、日本と比べて自分たちが住んでいる国への愛を持っている人達が多いと思った。そして関心のなさに関してだが、私は生活していて日本の街中よりもウェリントンの方が生きやすいと思った。理由としてニュージーランドの人々は日本と比べて親切心と「自分は自分、人は人」のような自意識の尊重を持ち合わせている人が多いと感じたからだ。自分の考えに自信を持ち行動ができているように見えて尊敬と同時にこの人達を見習って上手く円滑に生活していかなければならない。先程も言及した自主性に関してだが、新しいことに挑戦するという行動の大切さを知ることができた。就職したい仕事も見つからず、少し働いてみたいと思った場所でも結局無理だと考えてしまい行動していなかった。だがニュージーランドという新しい環境でその職について調べてみよう、先生にそのような職業を学校で教えている人のアポを取って、話す時間を設けてもらった結果、「何が必要なのか」「そのような産業にある様々な職」を知ることができた。もし自分がインターネットで検索をかけただけで終わっていたら絶対に手に入ることのない情報だと思う。今まで何も動かなかった事が少し挑戦してみただけで動き出したので、もし不利益を被ることがあっても、これからはより大きく新しいことに挑戦していきたいと思うようになった。